

人権啓発映像教材

今日も よみが 来たい

文部科学省選定

支えあって生きるよろこび

製作 八頭司 享

監督 家喜 俊彦

秋尾みどり



三波豊和



櫻町弘子



企画/福岡県・(財)福岡県人権啓発情報センター

制作/共和教育映画社

日本語字幕スーパー入り

今日もよが天気たい

制作意図

この物語は、視覚障がいのある一人の女性“京子”を通して、周りの人が「人権」の大切さに気づいていくストーリー展開になっています。

ある日、京子とたまたま同じバスに乗り合わせた乗客は、京子の存在や京子のとる行動によって、自分の心の中にある偏見や差別に気づいていきます。さらに、多くの人から支えられてきた京子自身もまた人の役に立つことで生き甲斐を見つけています。

あらすじ

青柳京子（46）は、人生の半ばで視力を失ったにもかかわらず、人の悩みや苦しみに耳を傾ける傾聴ボランティアとして、明るく元気に暮らしている。

しかし、突然障がい者となってしまった当初は、自分を避けるようになった友人や周囲の人たちの仕打ちに、戸惑い、傷つき、京子はひとりぼっちと思い込み、5年間も引きこもる暮らしをしていた。でも、京子は決して孤独ではなかった。

多くのボランティアも京子を救おうとしてくれていた。そして、母の存在も京子の生きる支えであった。やがて、障がいをもっている自分も人の役に立てるのだと気づいた京子は歩行訓練にも熱心に取り組むようになり、生きがいを感じるようになった。また、さまざまな勉強会にも参加。障がい者差別だけでなく、同和問題をはじめとした多くの差別が残っている事も知った。

「自分にしか出来ない仕事がある！」という事を励みに、社会と接していこうと前向きになった京子は、障がい者の感じる不自由な問題などをバス会社に報告したり、さまざまな形で言葉を発するようになった。

そんなある日、いつものように母の病院に向かう京子と、ボランティアの瞳（30）がバスに乗り込むと、あとから乗り込んできた斉藤雄治（21）が、京子を押しつけて優先座席に座ってしまう。ともに乗り込んだ中小企業の人事部長の岡崎志郎（51）は声をかけることなく周囲の人の動向を見守る。

次のバス停で井上達也（5）と母親の里美（36）が乗り込んでくる。無邪気な達也は、京子の杖や優先座席を見て「あれ何？」と聞く。その子どもの声で、雄治は優先座席に座ったことに気づく。次のバス停でお年寄りが乗り込んでくると、京子はその人に席を譲ろうとする。志郎は京子の行動を見て、自分の会社に面接に来た車椅子の青年の事を思い出す。情熱的な青年、しかし、障がい者である事を理由に採用をためらっていた。そのことが「差別」であることに気がつく。

雄治も、勇気を出してお年寄りに席を譲り、車内は温かい空気に包まれる。京子の行動に会話はなくても心を動かされた乗客たちは、胸に思いを抱き目的地へ向かう。京子もまた、白い杖をたよりに母のいる病院に向かって行く。

企画 福岡県
(財)福岡県人権啓発情報センター

制作 共和教育映画社

上映時間35分

片面・1層ディスク

MPEG2

COLOR

スタンダードサイズ

このディスクを複製、改変、有料上映することは法律で禁じられています。